

生物多様性ちば企業ネットワークによる 里山モニタリング調査

2023年2月21日

千葉県環境生活部自然保護課 生物多様性センター
大島 健夫

1

里山とは何か？

里山とは…

「村里家居近き山をさして里山と申し候」（木曾山雑話、1759）

里山の自然とは…

人間の維持管理を前提としたものであり、それによって生物多様性が維持されている。しかし近年、耕作放棄や山林の放置等が進行し、里山固有の生態系が失われつつある。

里山の管理放棄は、産業面だけでなく生物多様性の面からも里山の価値を低化させる。

「里山の保全」といっても、実に様々なアプローチがある。では、具体的にどのような活動を行うと、どのようなことが起こるのか？

2

里山モニタリングとは何か？

◎概要…

千葉市内の森林において、同地を管理するNPO及び地権者の協力を得て、生物多様性ちば企業ネットワークの勉強会として里山保全活動とモニタリングを実施。

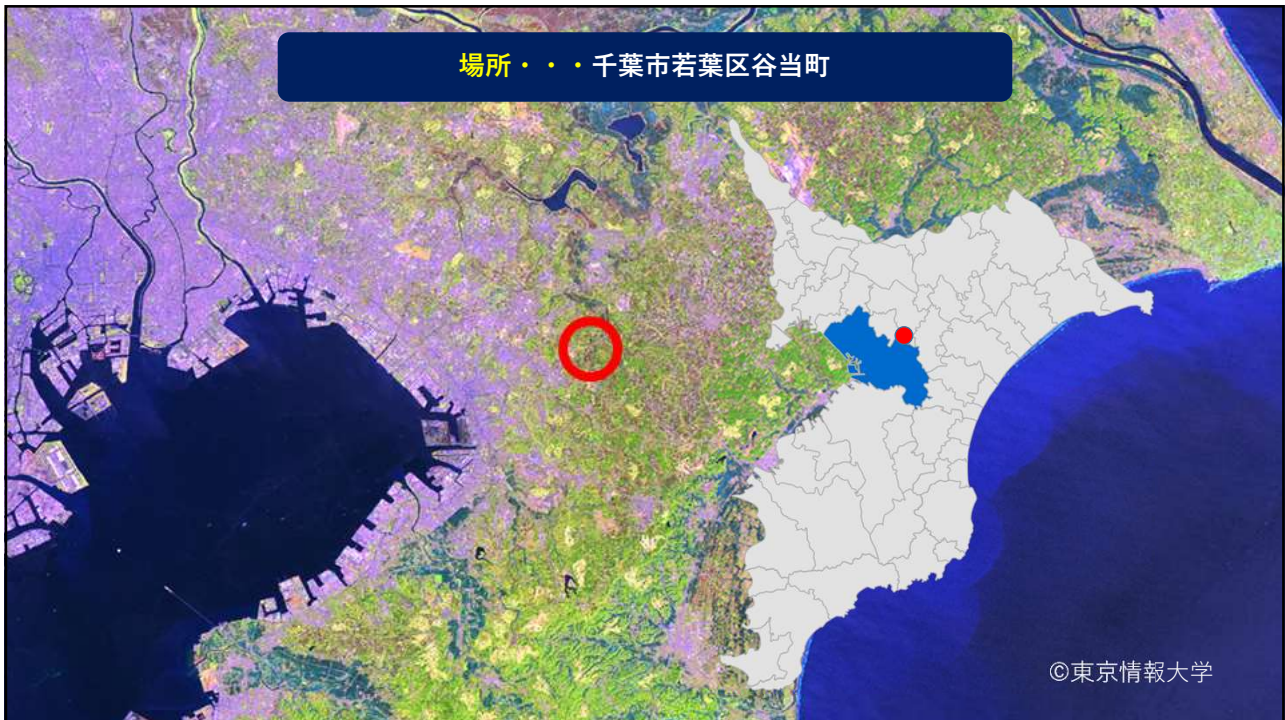
◎目的…

里山に人手を加えることによる変化を継続調査により把握する。これにより、里山の保全活動が生物多様性にどのような影響を及ぼすのか検証する。

そして、そこで得られた知見を、企業が所有する森林や工場内緑地の維持管理に役立てることができないか？

3

場所・・・千葉市若葉区谷当町



©東京情報大学

4

管理放棄され、藪化した森林



5

2017年11月24日、10m×10mの調査区（コドラート）を3箇所（平坦地、南向き斜面、北向き斜面）に設置。

調査区内の高さ1.3m以上の木本は、種名、位置、高さ、胸高直径を記録。また、草本及び高さ1.3m未満の木本は、種ごとに調査区内での被度（水平投影面積、%）と最大高を記録。



以降、毎年春と秋に、ちば企業ネットワークの勉強会として、植生のモニタリングを継続してきた。

上記調査後に低木層以下の樹木を伐採。アズマネザサを刈り取り。

6

実際のコドラート



7

調査風景 (植物の種類と高さを測り、記録する)



8

植生はどのように変化したのか…③希少種の出現



13

コドラートを利用する動物たち



14

里山モニタリングの成果

荒れている里山に適切に人の手を入れ、管理を行うことにより、生物多様性が増し、その地域にもともと生息していた希少種も復活する可能性があることが示された。

◎定期的なモニタリングという手法は、そのことを可視化する上で有効。特に、手を入れ始めてすぐの段階では変化が大きいので、対内的・対外的にアピールしやすい。

支援メンバーであった大学の研究室の学生が、卒業後に里山活動を行う法人に就職、企業メンバーとして参加するなど、生物多様性にかかわる理念とノウハウの継承、再生産の舞台ともなった。

◎このような活動は、地権者や地元の方々、日常的にフィールドに入っている方々の協力が不可欠であり、地域に根ざした新たな関係性を創出できる機会となる。

15



ご清聴ありがとうございました。

16